

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外渚4丁目101番地		
自己評価作成日	平成25年7月5日	評価結果市町村受理日	平成25年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192100150-00&PrfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その方にとってより良い生活を送るには」と常に考えるようにしています。職員と、ご利用者様のストレスをためない為にも外出の支援は力を入れています。特に近隣の散歩と地域内の喫茶店、ファミリーレストラン、大型複合施設へ行っては、楽しみごとをつくっています。又最近では、職員による、ピアノ演奏に力を入れており、毎日クラシック、童謡、歌謡曲がながれています。(4名の職員が弾いています。ご利用者様と、その家族も弾かれます)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の人権を尊重し、生活習慣を大切に、利用者の笑顔や笑い声があふれる事業所を目指している。外出を日常とし、散歩コースには住宅街を通り、神社に参拝したり、保育園には園舎に入って園児とふれあったり、中学校では校長先生とまじみで校庭で銀杏を拾い、生徒と会話するなどしている。喫茶店でお茶を飲み、買い物をするコースもある。又、屋上でティータイムなど利用者の選択を優先した外出支援をしている。家族・職員、時には利用者による、午前・午後のピアノ演奏は、利用者も口ずさみ笑顔を引き出す楽しい時間となっている。利用者の意向・家族の意見は職員と話し合い、サービスに反映できるように取り組んでいる。高校生の福祉体験学習も受け入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月1度の職員会議の冒頭に全職員による運営理念、職員の心得を朗唱している。又、目につく場所に理念を掲げて、意義の高揚に努めている。	管理者は会議や朝礼時に、利用者が穏やかに過ごしてもらっているか、笑顔を引き出す努力をしているかなど問いかげながら、理念の浸透を図り、ケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の体育振興階主催のヘルシーウォーク交流会の参加や、町内主催の秋祭り、神社の行事の参加を通じて交流を行っている。又施設周辺の散歩を通じ、地域住民と交流を図っている。	地域行事(秋祭り、ヘルシーウォーク)に参加し住民と声をかけあっている。隣のコンビニには利用者の認知症行動を理解し協力してもらっている。踊り、手芸のボランティアの訪問もある。しかし地域密着型の事業所として住民を事業所に取り組み働きがない。	散歩や地域行事に参加し地域の一員として認められているが、事業所ができる地域貢献や、気軽に立ち寄ってもらえる取り組みも検討してほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、自治会長、民生委員、駐在所の方々に参加をお願いしている。会議の中で、事業所を通じて地域との方々の困りごと相談や総理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、地震対策、災害対策、避難方法についてのご意見をよくいただいている。地域との連携や、町内会長の意見を参考にサービス向上を目指している。	隣接する同法人グループホームと合同で運営推進会議を開催している。メンバーからは活発に事故や避難訓練についての意見が出され、特に自治会長からは積極的な協力が得られている。しかし第二江並「福寿苑」単独の会議が開かれていない。	メンバーの都合から合同会議もやむをえないが、単独の報告や意見交換、討議ができる時間帯の工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方々とは、日頃から、困難事例についての相談や提言を通じ協力体制をつくっている。重要な事故報告は届けを必ず提出して指導も受けている	市町村の会議に参加し事業所の現状を報告したり相談をしている。時には出向いて、事業所の行事案内などを届けたり、電話でも連絡をとりながら協力関係を築く努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回は職員会議時に、全員が熟知できるよう身体拘束勉強会を開いている。又、身体拘束記事があれば、常に朝礼で報告、話し合いをもっている	職員会議で拘束について学習し、その弊害を熟知している。運営推進会議で、メンバーから事故防止のために、ベット柵、居室カメラ設置の意見があったが、身体拘束禁止・人格の尊重からできないことを説明し、身体拘束をしないケアの理解が得られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時の研修を必須で行います。外部研修に職員を派遣し、報告会と全職員に対しての指導を強化している。虐待の記事が出た場合、職員と会議を持ち我施設では、起こらないように注意を払っている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、専門講習に参加して学んでいる。現在職員個々にて、認知症講習会等にて学んでいる。その報告を会議で行ったり、日々の職務の中で見つめ直し理解と活用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業者のケアに関する取り組み、医療の連携体制、利用料金のシステム、又退所を含めた事業所の対応可能な範囲について、詳しく説明し理解を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時等には、常に家人の意見をお聞きできるように努力している。利用者様にも常に望みを言えるような雰囲気作りに努めている。担当者会議でも意見をもらい、反映に努めている	家族の訪問時に声をかけ、気軽に話せる雰囲気づくりをしている。利用者に寄り添い話しかけの機会を増やしたり、リハビリの時間を作ったり、家族の要望に応じている。散歩に出掛けられない時は体操やレクリエーションを工夫している。全員での外出の意見についても検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談の他に、適時職員より意見をもらったり話し合いの機会を作っている。グループ事業所の合同会議も開かれ、運営に関する提案や意見を出し合い、より良い事業所を目指している。	管理者は職員と1対1で面談し、意見や要望を聞いている。日常ケアなどについての気づきや意見は、その都度全員で検討し実現している。医療面で看護師同士の協力を、隣接グループホームの看護師とも話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議において、就業規則及びキャリアパスの説明を行い、資格取得に向けた支援と研修勉強会の参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には常にスキルアップを求めている。資質の向上に向けて研修の参加を要請したり、地域社会、高齢化社会の一翼を担い続けていくために高い技術と知識を持てるように研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は同業者との交流を求め、他施設見学や、他施設職員との交流をおこなった。そこで見聞きしたことを、我施設にもちかえり、日々の業務に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、本人の思い、要望等に少しでも近づけれるようケアマネ、スタッフが各自努力している。又、看護師が医療に対しての困難事例を受け止めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、親族の方の不安に対し、小さなことでも、聞き取りをするように心がけている。本人と家族間で、違う意見であっても、理解、解決できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提供、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側という意識を持たず尊厳を大切にしながら、生活文化の知恵等教えてもらう姿勢でいる。一緒に泣き、笑い常に相手を思いやる気持ちを大事にするように指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を細かく家族に伝えて、日々の生活を健やかに過ごせる支援を一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年のお付き合いの方々との関係を絶つことないように、外出や面会の支援を行っている。(美容院、墓参り、喫茶店、買い物等)人のみならず、大切にしてきた、ペットとの関係も維持している	家族・家主・知人などからの情報をアセスメントしている。遠方の親族・信者・愛犬などとの関係の継続も支援している。訪問者には、関係者だけでくつろいでもらえるよう配慮し対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、仲良く、楽しく支えあいながら過ごせるよう、常にお声かけを行い一緒に食事やお茶の時間をもうけている。個々の時間も大事にしているが、多人数の関わりも大事にしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方、在宅に戻られた方にも、ケアマネを通じて、関係を保っている。その後、介護相談にのったり、再入所されたりと継続の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、思い、希望を把握するように努めている。スタッフは常に気づきを大事にして、[何か出来ないか]を、前向きに話し合っている。	新聞記事・チラシ・昔話などから、話題を広げ、裁縫がしたい、買い物に行きたいなど聞いている。思いの表現できない利用者の発する言葉からの気づきを家族に問いかけ、それらを記録に残し介護計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を知ることはプライバシーにも関係してくるので、配慮を忘れずに情報の収集を行い、今後の[その人らしい生き方の支援の取りくみ]につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らし方は個々に違うため、生活のリズム(食事、睡眠、トイレ)を各スタッフが把握に努め、その方の出来る力を大事に伸ばしていく方向性で支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や面会時に本人、家族、ナース等と話し合いを行い、よりよく暮らせるための課題やケアについてアイデアを出し合い、介護計画の作成に繋げている。又、毎月のモニタリングもおこなっている	毎月のモニタリングの結果、本人・家族の意向や医師の意見を取り入れ、担当者会議で検討し作成している。サービス内容を特に分かりやすく表示している。利用者の状態の変化に合わせ、柔軟に介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として計画に沿って全員で記入をしている。情報の共有と統一介護をモットーに勤務開始前、朝礼と夕礼時の確認も義務づけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院及び公共機関への送迎など、必要な支援はご家族と連携し柔軟な対応をしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、自治会長、民生委員、駐在所に引き続き参加をお願いして地域と連携をはかり良好な関係を築いていきたい。近隣の商店にも協力を呼びかけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診にてかかりつけ医と健康管理に努めている。体調不良など特変があれば、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。	かかりつけ医・協力医受診は本人の意向に合わせている。かかりつけ医・専門医への受診は基本は家族同行としているが看護師が代行することもある。受診結果や本人の状態は医師や家族に報告し、連携しながら適切に診察が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護を通して普段と変わりがあったり、気になることがあれば、看護師に報告して異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたら、看護師や管理者が定期的に見舞うようにし、ご家族や病院関係者と情報を共有して早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を向かえる場合、御家族と話し合い希望に沿って対応できるように、心掛けています。かかりつけ医とも、連携を図っている。	入居時に「看取り介護に関する指針」を書面で説明している。終末期には医師や家族と話し合いを重ね、状況や家族の希望に添った対応をしている。職員は救急時対応の研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や訓練を定期的に行って、イザという時、適切な対応が取れるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、火災通報訓練、避難訓練を行っている。地震時の対応を積極的に行い備蓄品の備えに対して日頃から取り組んでいる。地震避難は町内会長にもお願いしている	消防署の指導で夜間想定も含め単独の避難訓練を実施している。隣接事業所と2階3階に避難通路があることから、合同で実施したことで連携も確認できた。訓練に自治会長は参加したが住民の参加が得られていない。また、緊急時に連絡通路の開錠が困難である。	法人内で避難通路の鍵について、検討されたい。尚、訓練には自治会長のみでなく住民参加も働きかけてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、その情報の個別性や守秘義務について充分理解し、責任ある取り扱いをしている。職員指導も常におこなっている	居室の開閉、トイレのカーテンを閉じる、入浴時などプライバシーを損ねない対応を心がけている。食事のエプロン使用も本人の意向に合わせている。管理者は個人情報の管理について職員に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何を望んでいるか表情や態度に注意している。意思表示が出来ない方には、表情を読み取ったりご家族に同意を求めようとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせて、ご本人の気持ちを尊重し、利用者様優先の時間の流れが作れるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整髪やお化粧を望まれる方には、職員が寄り添う支援をしている。女性の利用者の髪染めの手伝い、化粧品の買い物の同行、小さな気配りも忘れないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食材の準備を楽しく行っている。おいしく召し上がってもらうよう、利用者の希望を取り入れている。	ユニットごとに利用者も下準備を一緒にしている。好みの献立を立て、盛り付けも工夫している。職員も一緒に食事し、見守りや介助しながら、頂き物や収穫した食材の話をして、楽しい食事になるよう心配りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養摂取量・水分量を記録して、栄養バランスに注意している。摂取量が少ない時は、補助食品を使用して補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って細菌が増えないよう清潔保持に努めている。口腔内のチェックも、定期的に行っている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安心感のある声かけに配慮して少しでも自立に繋がるように支援している	利用者の排泄パターンを把握し、動作を見守り、時間を見計らい誘導しながら、トイレでの排泄を促している。お茶や体操で腸の働きをよくすることで、服薬にたよらない排便支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や野菜、食物繊維を多く摂取してもらうように努めている。腹部や肛門部周囲のマッサージにて排便を促し、それでも困難な場合は、内服にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に沿って、安全でリラックスでき、季節感を感じてもらえる入浴を心掛けている。	機械浴・個浴の設備があり、利用者の身体状態にあわせて入浴している。午前・午後・シャワー浴など希望に合わせている。薬草・柚子・ハーブや好みの入浴剤などでゆったりできる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩や体操をして体を動かすようにし、休息を取り入れながら安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れがないよう職員間で確認し合ってから、服薬するようにしている。体調変化があれば、看護師にてかかりつけ医に薬の検討をお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、シーツ交換、掃除など一緒に作業していただいている。生活暦を生かした、ベランダでの野菜作りは収穫を楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	保育園や中学校は散歩コースになっている。屋上へ時々、散歩に行くが、景色がよく好評です。手作りおやつ持参で、ゆったり過ごしていただくこともあります。	車椅子の利用者も一緒に散歩を日常とし、神社に参拝したり、保育園で園児とふれあったり、コーヒーやジュースの店に立ち寄りたりすることを楽しみとしている。季節に合わせてドライブや花見にも出掛けている。屋上でお茶をしたり、花火を見るのも楽しみとなっている。	

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物、外出支援時のお会計を各自お願いしています。ご自分の財布やポーチから、ずまされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、手紙、はがきの返信等、支援しながら、行うようにしています。母の日、敬老の日等は、家族からお手紙をいただくようにしており、とても喜ぶ姿が見られます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのタペストリーを飾ったり、花を観賞することで、四季をより感じ取っていただいています。職員による、ピアノ演奏は、毎日行われています。童謡や、歌謡曲をBGMとして、弾いています。利用者様は自然に口づさんでおられます。	テレビにかたよらず、職員のピアノ生演奏はユニットごとに、利用者の好みの選曲でゆったり落ちつける雰囲気を作っている。掘りごたつの和室は、ゲームをしたり洗濯物を整理したり、うたた寝するなど利用者は自由に過ごす空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2台置き、食事以外の時間は、気の合う方々と一緒にすわられています。畳の部屋は、掘コタツになっているため、足を伸ばしてお茶会をしたり、家族の方と会話されたり、自由に使ってもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はソファや、仏壇等を置かれ、安らぎの空間として、居心地よく使ってもらっています。家人には常に「なじみのものをお持ちください」と伝えています。	自作のパッチワークを敷いた居室や、化粧品・日記・アルバムを置いた居室もある。利用者が毎日掃除をするなど、利用者自身の生活習慣に合わせた。家族と一緒に家具など配置し、居心地よく過ごせる工夫をしている。ポータブルトイレは布を掛け人目につきにくい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に洗面台を配置しており、身支度や化粧等の鏡を使った、支援に努めています。ご自分の姿を確認して頂き、常にきれいなお顔で生活しておられます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100150		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム第二江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外渚4丁目101番地		
自己評価作成日	平成25年7月5日	評価結果市町村受理日	平成25年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192100150-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月1度の職員会議の冒頭に全職員による運営理念、職員の心得を朗唱している。又、目につく場所に理念を掲げて、意義の高揚に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の体育振興階主催のヘルシーウォーク交流会の参加や、町内主催の秋祭り、神社の行事の参加を通じて交流を行っている。又施設周辺の散歩を通じ、地域住民と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、自治会長、民生委員、駐在所の方々に参加をお願いしている。会議の中で、事業所を通じて地域との方々の困りごと相談や総理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、地震対策、災害対策、避難方法についてのご意見をよくいただいている。地域との連携や、町内会長の意見を参考にサービス向上を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方々とは、日頃から、困難事例についての相談や提言を通じ協力体制をつくっている。重要な事故報告は届けを必ず提出して指導も受けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回は職員会議時に、全員が熟知できるよう身体拘束勉強会を開いている。又、身体拘束記事があれば、常に朝礼で報告、話し合いをもっている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時の研修を必須で行います。外部研修に職員を派遣し、報告会と全職員に対しての指導を強化している。虐待の記事が出た場合、職員と会議を持ち我施設では、起こらないように注意を払っている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、専門講習に参加して学んでいる。現在職員個々にて、認知症講習会等にて学んでいる。その報告を会議で行ったり、日々の職務の中で見つめ直し理解と活用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業者のケアに関する取り組み、医療の連携体制、利用料金のシステム、又退所を含めた事業所の対応可能な範囲について、詳しく説明し理解を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時等には、常に家人の意見をお聞きできるように努力している。利用者様にも常に望みを言えるような雰囲気作りに努めている。担当者会議でも意見をもらい、反映に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談の他に、適時職員より意見をもったり話し合いの機会を作っている。グループ事業所の合同会議も開かれ、運営に関する提案や意見を出し合い、より良い事業所を目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議において、就業規則及びキャリアパスの説明を行い、資格取得に向けた支援と研修勉強会の参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には常にスキルアップを求めている。資質の向上に向けて研修の参加を要請したり、地域社会、高齢化社会の一翼を担い続けていくために高い技術と知識を持てるように研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は同業者との交流を求め、他施設見学や、他施設職員との交流をおこなった。そこで見聞きしたことを、我施設にもちかえり、日々の業務に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、本人の思い、要望等に少しでも近づけれるようケアマネ、スタッフが各自努力している。又、看護師が医療に対しての困難事例を受け止めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、親族の方の不安に対し、小さなことでも、聞き取りをするように心がけている。本人と家族間で、違う意見であっても、理解、解決できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提供、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側という意識を持たず尊厳を大切にしながら、生活文化の知恵等教えてもらう姿勢でいる。一緒に泣き、笑い常に相手を思いやる気持ちを大事にするように指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を細かく家族に伝えて、日々の生活を健やかに過ごせる支援を一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年のお付き合いの方々との関係を絶つことないように、外出や面会の支援を行っている。(美容院、墓参り、喫茶店、買い物等)人のみならず、大切にしてきた、ペットとの関係も維持している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、仲良く、楽しく支えあいながら過ごせるよう、常にお声かけを行い一緒に食事やお茶の時間をもうけている。個々の時間も大事にしているが、多人数の関わりも大事にしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方、在宅に戻られた方にも、ケアマネを通じて、関係を保っている。その後、介護相談にのったり、再入所されたりと継続の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、思い、希望を把握するように努めている。スタッフは常に気づきを大事にして、[何か出来ないか]を、前向きに話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を知ることはプライバシーにも関係してくるので、配慮を忘れずに情報の収集を行い、今後の[その人らしい生き方の支援の取りくみ]につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らし方は個々に違うため、生活のリズム(食事、睡眠、トイレ)を各スタッフが把握に努め、その方の出来る力を大事に伸ばしていく方向性で支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や面会時に本人、家族、ナース等と話し合いを行い、よりよく暮らせるための課題やケアについてアイデアを出し合い、介護計画の作成に繋げている。又、毎月のモニタリングもおこなっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として計画に沿って全員で記入をしている。情報の共有と統一介護をモットーに勤務開始前、朝礼と夕礼時の確認も義務づけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院及び公共機関への送迎など、必要な支援はご家族と連携し柔軟な対応をしている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、自治会長、民生委員、駐在所に引き続き参加をお願いして地域と連携をはかり良好な関係を築いていきたい。近隣の商店にも協力を呼びかけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診にてかかりつけ医と健康管理に努めている。体調不良など特変があれば、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護を通して普段と変わりがあったり、気になることがあれば、看護師に報告して異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたら、看護師や管理者が定期的に見舞うようにし、ご家族や病院関係者と情報を共有して早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を向かえる場合、御家族と話し合い希望に沿って対応できるように、心掛けています。かかりつけ医とも、連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や訓練を定期的に行って、イザという時、適切な対応が取れるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、火災通報訓練、避難訓練を行っている。地震時の対応を積極的にい備蓄品の備えに対して日頃から取り組んでいる。地震避難は町内会長にもお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、その情報の個別性や守秘義務について充分理解し、責任ある取り扱いをしている。職員指導も常におこなっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何を望んでいるか表情や態度に注意している。意思表示が出来ない方には、表情を読み取ったりご家族に同意を求めようとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせて、ご本人の気持ちを尊重し、利用者様優先の時間の流れが作れるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整髪やお化粧を望まれる方には、職員が寄り添う支援をしている。女性の利用者の髪染めの手伝い、化粧品の買い物の同行、小さな気配りも忘れないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食材の準備を楽しく行っている。おいしく召し上がってもらうよう、利用者の希望を取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養摂取量・水分量を記録して、栄養バランスに注意している。摂取量が少ない時は、補助食品を使用して補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って細菌が増えないよう清潔保持に努めている。口腔内のチェックも、定期的に行っている。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安心感のある声かけに配慮して少しでも自立に繋がるように支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や野菜、食物繊維を多く摂取してもらうように努めている。腹部や肛門部周囲のマッサージにて排便を促し、それでも困難な場合は、内服にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に沿って、安全でリラックスでき、季節感を感じてもらえる入浴を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩や体操をして体を動かすようにし、休息を取り入れながら安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れがないよう職員間で確認し合ってから、服薬するようにしている。体調変化があれば、看護師にてかかりつけ医に薬の検討をお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、シーツ交換、掃除など一緒に作業していただいている。生活暦を生かした、ペランダでの野菜作りは収穫を楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	保育園や中学校は散歩コースになっている。屋上へ時々、散歩に行くが、景色がよく好評です。手作りおやつ持参で、ゆったり過ごしていただくこともあります。		

グループホーム第二江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物、外出支援時のお会計を各自お願いしています。ご自分の財布やポーチから、ずまされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、手紙、はがきの返信等、支援しながら、行うようにしています。母の日、敬老の日等は、家族からお手紙をいただくようにしており、とても喜ぶ姿が見られます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのタペストリーを飾ったり、花を觀賞することで、四季をより感じ取っていただいています。職員による、ピアノ演奏は、毎日行われています。童謡や、歌謡曲をBGMとして、弾いています。利用者様は自然に口づさんでおられます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2台置き、食事以外の時間は、気の合う方々と一緒にすわられています。畳の部屋は、堀コタツになっているため、足を伸ばしてお茶会をしたり、家族の方と会話されたり、自由に使ってもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はソファや、仏壇等を置かれ、安らぎの空間として、居心地よく使ってもらっています。家人には常に「なじみのものをお持ちください」と伝えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に洗面台を配置しており、身支度や化粧等の鏡を使った、支援に努めています。ご自分の姿を確認して頂き、常にきれいな顔で生活しておられます。		